

企業名：京葉銀行

レポート名：統合報告書・ディスクロージャー誌 2022

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

企業名からも判るように、京葉銀行は千葉県を運営基盤として地域に根差した経営を行っている。報告書内でも、千葉県経済への貢献を強く訴えている。千葉県のマーケットとしての高いポテンシャルについて、人口統計や産業、インフラ、地価などから解説しており、千葉県の成長をサポートする企業としての自負がうかがえる。

また、ESG投資として7000億円を設定したことや、男女ともに高い育休取得率を達成していることなどを示しており、利得のみならず社会全体に対する責任を果たそうとしていることがうかがえる。京葉銀行は、高いポテンシャルをもつ千葉県経済の中で利益をあげながら、地域経済への貢献と社会全体をリードする倫理的な態度を持ち合わせた企業を目指しているのだということが報告書から理解できた。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

京葉銀行は千葉県にフォーカスして運営しており、純利益も向上しており成長していることは報告書から理解できる。しかし、他の銀行、例えば三井住友銀行や三菱UFJ銀行などの大手銀行も千葉県に進出しているはずであるから、千葉県における優位性を示す指標が報告書内に示されていればより分かりやすかったように思う。例えば、千葉県内の銀行支店のうち京葉銀行のものが占める割合や、千葉県内の企業のなかで借入先として京葉銀行を選んでいる割合などがあれば千葉県に根差した銀行としての競争優位性をよりアピールできるような気がする。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

先述のように、報告書内で見開き1ページを用いて千葉県のマーケットとしてのポテンシャルの高さについて説いており、説得力があった。千葉県を主たるマーケットとしておいていることから、京葉銀行の成長と千葉県経済の成長が関連しているのも理解できる。実際に利益が向上していることも示されていることもさらなる説得力に繋がっている。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人材育成の方針として「人材を人財として捉え」という箇所に注目した。社員の階層ごとに育成施策を明確にしており社会保険労務士や証券アナリストなどの資格取得サポートの制度があり、デジタル人材育成のための戦略もカテゴリーに分けて明確にしている。また、ワークライフバランスを充実させるために、フレックスタイム制度の導入や、副

業の解禁、先述の育児休業や介護休業の充実など社員が働きやすい環境を整えることがそのまま顧客への良質なサービス提供にもつながっているという考えが読み取れた。また、指導的地位に占める女性の割合を 30%以上にするという目標などが掲げられており、多様な意見を吸い取る姿勢も見取れる。

以上のことが報告書から読み取れることより、自身が京葉銀行において人的資本の価値向上を達成できると判断した。

## 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

個人的に特に注目したのが「LGBT に対応した住宅ローン」という項目だ。たった三行に過ぎないが、LGBT 事実婚ペアが住宅を取得する際のローンの選択肢を増やすという目的が書かれている。LGBT の当事者として、このような項目が書き込まれていることが大変うれしい。他にも、フードバンクを通じた食品寄付を行っていることや社員のモチベーション向上のための「Thanks カードの活用」など小さい扱いながらも素晴らしい取り組みが報告書内で紹介されている。もちろん、紙幅の都合などでこのような構成になったのだろうが、時流に即している以上の評価を獲得するための素材となり得るなのだから、もう少し目立つように扱ってもよいのではないかと思った。統合報告書を受け取る株主もよもや利益だけで企業を判断しているわけではないだろうから。